

【報道関係各位】

2022年8月2日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 暑さに関する名称について気象予報士 130 名にアンケート調査を実施 最高気温 40℃以上は「酷暑日」、夜間の最低気温 30℃以上は「超熱帯夜」に

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太、以下「日本気象協会」)は、所属する気象予報士のうち 130 名に対して実施した、「最高気温が 40℃以上の日」、「夜間の最低気温が 30℃以上の夜」の名称に関するアンケート結果を 8 月 2 日(火)に発表します。

気象庁の予報用語では、日最高気温が 35℃以上の日を「猛暑日」、夜間の最低気温が 25℃以上のことを「熱帯夜」として定義していますが、日最高気温が 40℃以上の日、夜間の最低気温が 30℃以上の夜の表現については現在定義されていません。

今回、この 2 つの名称についてアンケート調査を実施し、「最高気温が 40℃以上の日」には「酷暑日(こくしょび)」が、夜間の「最低気温が 30℃以上の夜」には「超熱帯夜(ちょうねったいや)」が選ばれました。(※1)

〓 日本気象協会発表 〓 

最高気温 **40℃以上** の日・最低気温 **30℃以上** の夜の名称

最高気温 

こくしょび
酷暑日

40℃以上

35℃以上 **猛暑日**

30℃以上 **真夏日**

25℃以上 **夏日**

最低気温 

ちょうねったいや
超熱帯夜

30℃以上

25℃以上 **熱帯夜**

※ 「酷暑日」「超熱帯夜」は日本気象協会が独自でつけた名称であり、気象庁が定義しているものではありません

これまで国内で 40℃以上を観測したのは、1875 年の統計開始から 32 地点で計 67 回ですが、この内 2001 年以降の約 20 年で 59 回と、9 割近くを占めています。(※2)また、2022 年は全国で観測史上初めて 6 月に 40℃以上を観測し、今年の夏も各地で厳しい暑さが予想されています。本アンケート結果をもとに、天気予報専門メディア tenki.jp では暑さへの関心を高め、熱中症の予防啓発や注意喚起に新しい名称を役立てていきます。

※1 「酷暑日」「超熱帯夜」は日本気象協会が独自でつけた名称であり、気象庁が定義しているものではありません。

※2 観測精度の向上も 40℃以上の観測が増加した要因の一つと考えられています。

【気象予報士コメント】



■天達 武史 気象予報士
(フジテレビ「めざまし8」に出演)

どちらもイメージしやすいですね。特に近年は毎年のように40℃を超えて今年は6月にまさかの“酷暑日”。暑さの常識が変わってきました。今夏のヨーロッパの記録的な熱波も他人事ではない気がします。今後災害レベルの暑さどう向き合っていくか？冷房が苦手な高齢者の夜間熱中症も心配です。私達の伝え方も重要です。



■奈良岡 希美子 気象予報士
(日本テレビ「日テレ NEWS24」、読売テレビ「情報ライブミヤネ屋」、TBS「Nスタ」に出演)

以前は稀にしかなかった最高気温40度以上というのが、最近では珍しくなくなってきていて、猛暑日以上の表現が必要になってきました。寝苦しい夜も多くなっています。ただ、「酷暑日」や「超熱帯夜」という言葉が、真夏日や猛暑日、熱帯夜のように頻発するようにならないことを願います。



■佐藤 公俊 気象予報士
(NHK「気象情報」に出演)

酷暑日は、ひどい意味の酷が入り、危険な暑さを感じます。超熱帯夜は、端的で分かりやすい言葉です。危険な暑さを伝える際に、新たな分かりやすい名称が加わるのは、伝え手として有難いです。今後こうした暑さがどの程度増えるかを注視し、危険を呼びかける表現もよく考え、酷暑を和らげる方法も伝えていければと思います。



■岸本 慎太郎 気象予報士
(「tenki.jp」 YouTube チャンネルに出演)

「酷暑」という言葉は小学生の頃に学んだものの、「猛暑日」や「真夏日」という表現があるため、ほとんど使うことはありませんでした。新たに「酷暑日」が誕生することで、テレビや SNS を通して多くの方に今一度暑さの危険性を意識して欲しいです。気象予報士として、これからは「酷暑日」や「超熱帯夜」のような暑さを表す新語を用い、暑さへの注意喚起をしっかりとしていきます。

他に候補として挙げた表現や、近年の日本国内の暑さの推移、熱中症予防のポイントなど詳細は「日本気象協会が選ぶ 暑さに関する新しい言葉 ～tenki.jp ラボ Vol.22～」をご覧ください。また、天気予報専門メディア tenki.jp では本アンケートの結果を活用し、気象予報士が日々提供する「日直予報士」等で暑さへの呼びかけを今後強化していきます。

調査概要

- 【調査対象】 日本気象協会所属の気象予報士 130 名
- 【調査方法】 インターネット調査
- 【調査期間】 2022 年 7 月 13 日(水)～7 月 20 日(水)

■「tenki.jp ラボ」に関して

「tenki.jp ラボ」では、より天気に興味を持っていただくことを目的として、天気に関わる情報と意識調査や気象予報士の知恵、時節に関わる見解や情報発信を行っており、今回で 22 回目の発表となります。

 URL : <https://tenki.jp/suppl/entries/8/> (PC/スマホ対応)

■天気予報専門メディア「tenki.jp(てんきじえーびー)」 <https://tenki.jp>

日本気象協会が発表する気象情報を、Web サイト／スマートフォンアプリで無料提供している天気予報専門メディアです。年間ページビュー数は 56 億 PV(Web ページ・スマートフォンアプリ合算での推定)。生活に欠かせない天気予報に加え、専門的な気象情報、地震・津波などの防災情報も確認できます。気象予報士が日々提供する「日直予報士」も人気コンテンツです。

- ・「tenki.jp」は、日本気象協会と ALiNK インターネットの共同運営です。
- ・「tenki.jp」は、一般財団法人 日本気象協会の登録商標(登録第 6129427 号)です。
- ・「tenki.jp」ロゴマークは、一般財団法人 日本気象協会と株式会社 ALiNK インターネットの登録商標(登録第 5763293 号)です。

本情報を使用される際は、クレジット（「tenki.jp ラボ」調べ）と
サイトリンク (<https://tenki.jp>) を両方記載してください。